

ライスベリーパウダー臨床研究

ライスベリーパウダーの機能解明を目的に、順天堂大学大学院 漢方先端臨床医学・山口琢児博士のチームによる研究を依頼。新たなライスベリーパウダーの機能が示唆された。

< 研究継続中 >

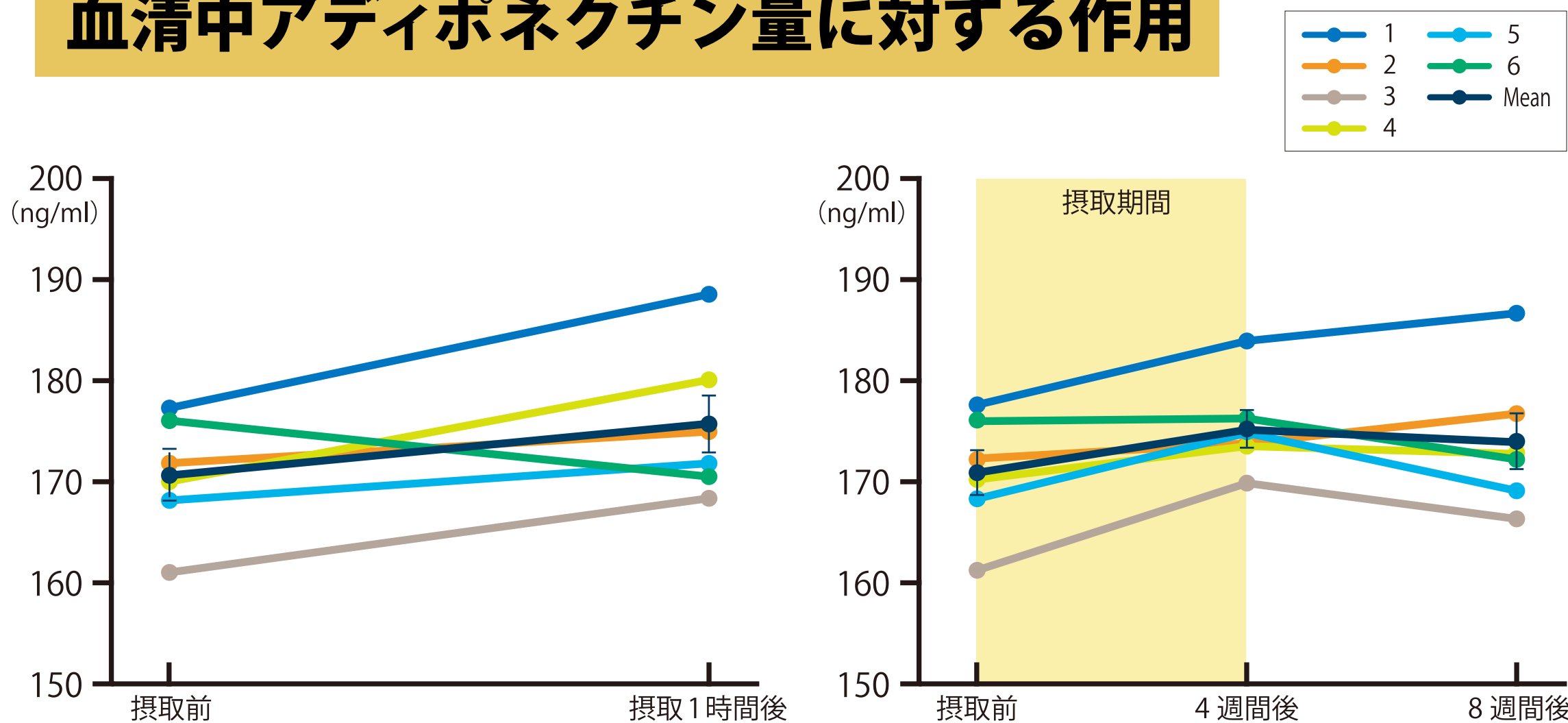
Research Report

α -PSPのアディポネクチンに対する作用を研究する。併せて酸化ストレス(d-ROMs)、自律神経に対する作用、気分プロフィール(POMS2 使用)、唾液中コルチゾール量を測定し、抗ストレス、抗疲労作用についても検証する。

📅 試験時期：2019年11月～2020年1月 🌐 試験地域：日本（順天堂大学大学院）

健康者6名(30代～50代女性)を対象に4週間、1日10g(1回5gを朝晩摂取)の α -PSP(ライスベリーパウダー)を連続摂取。摂取前・摂取1時間後・摂取4週間後・摂取終了4週間後の血液、唾液を採取。さらに気分プロフィール(POMS2)を実施した。

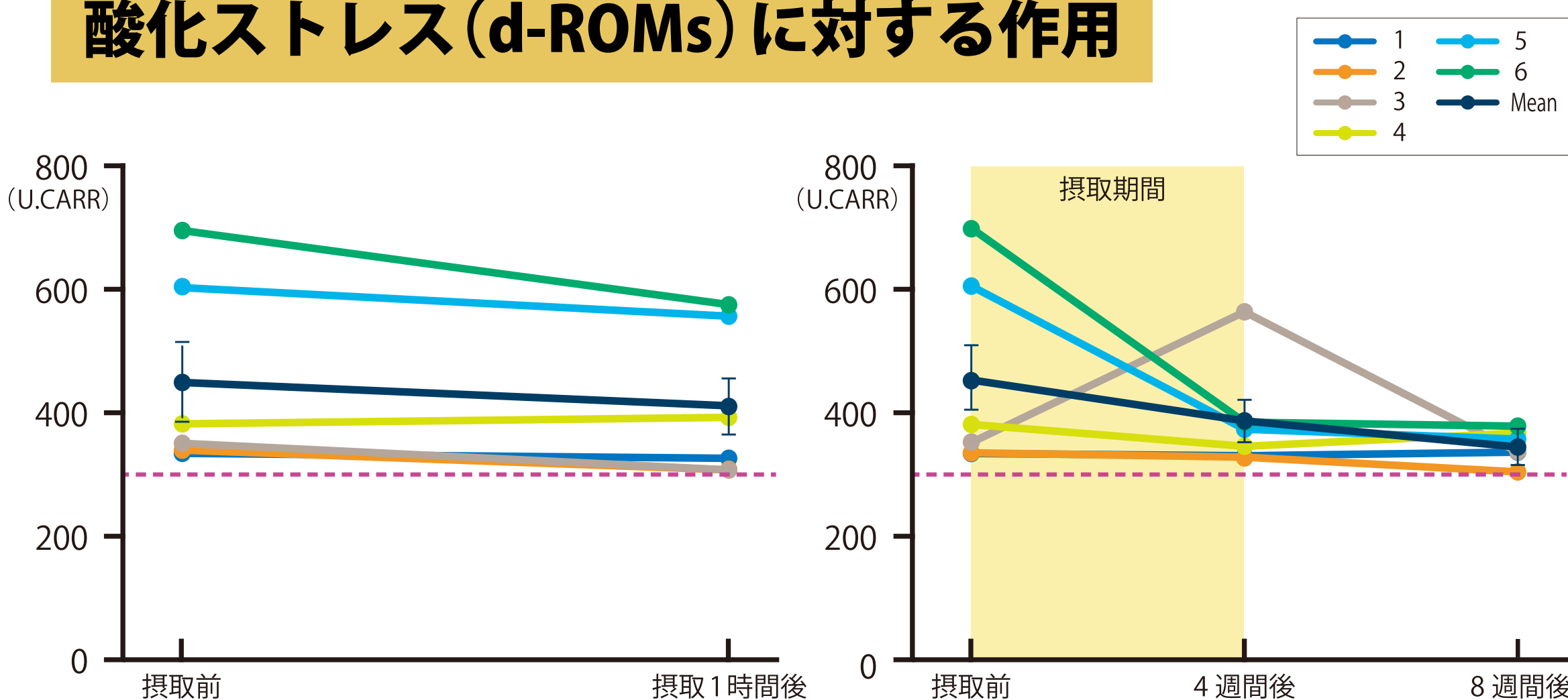
血清中アディポネクチン量に対する作用



α -PSP(ライスベリーパウダー)4週間摂取(10g/日)により6名中3名にアディポネクチンの増加および摂取終了4週間後には低下することが確認された。単回摂取(5g)においても増加することが確認された。

4週間の摂取によりアディポネクチンの増加がみられたことから、長期摂取により確かな果が得られる可能性が示唆された。

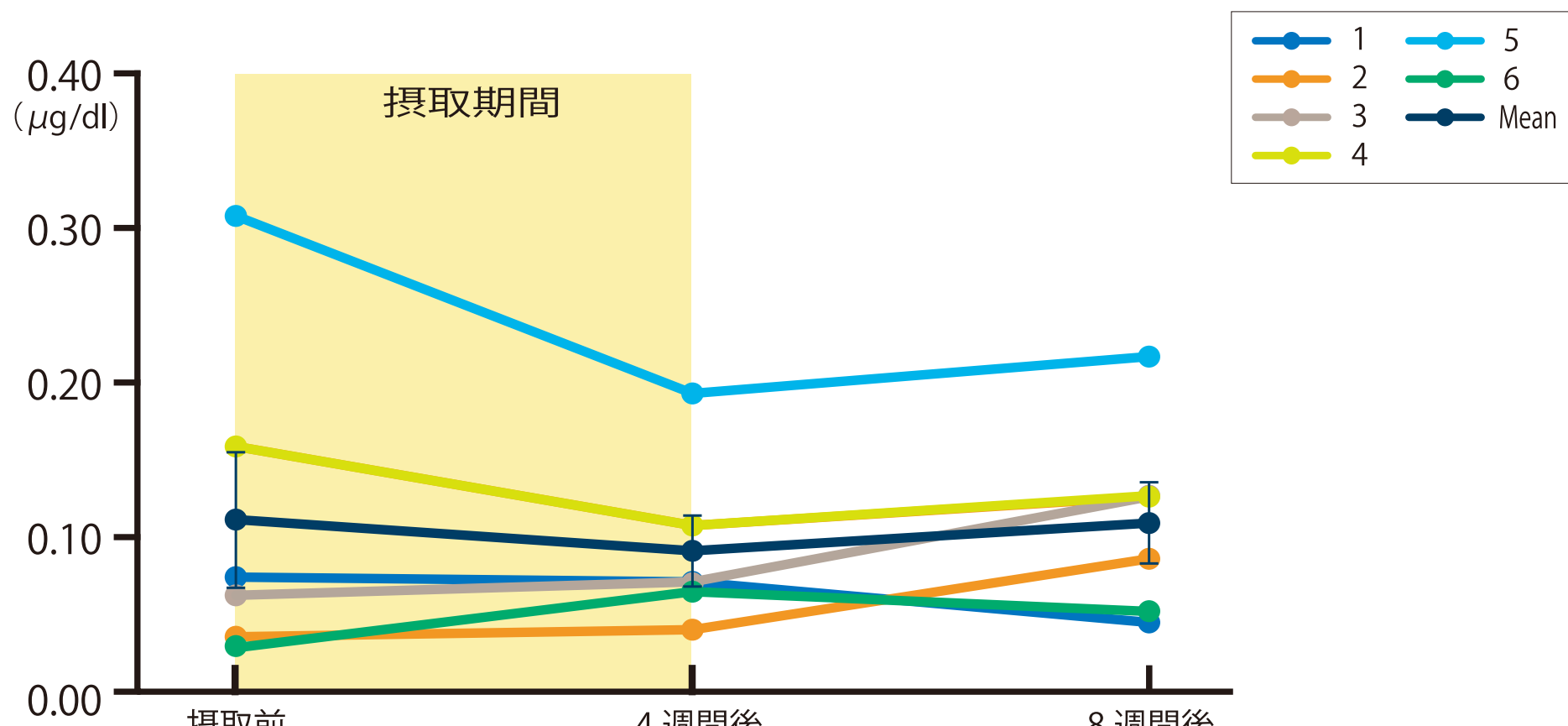
酸化ストレス(d-ROMs)に対する作用



α -PSP(ライスベリーパウダー)単回摂取(5g)および4週間摂取(10g/日)により酸化ストレス(d-ROMs)が低下した。特に酸化ストレスが高い人ほど低下することが観察された。この作用は摂取終了後もみられた。

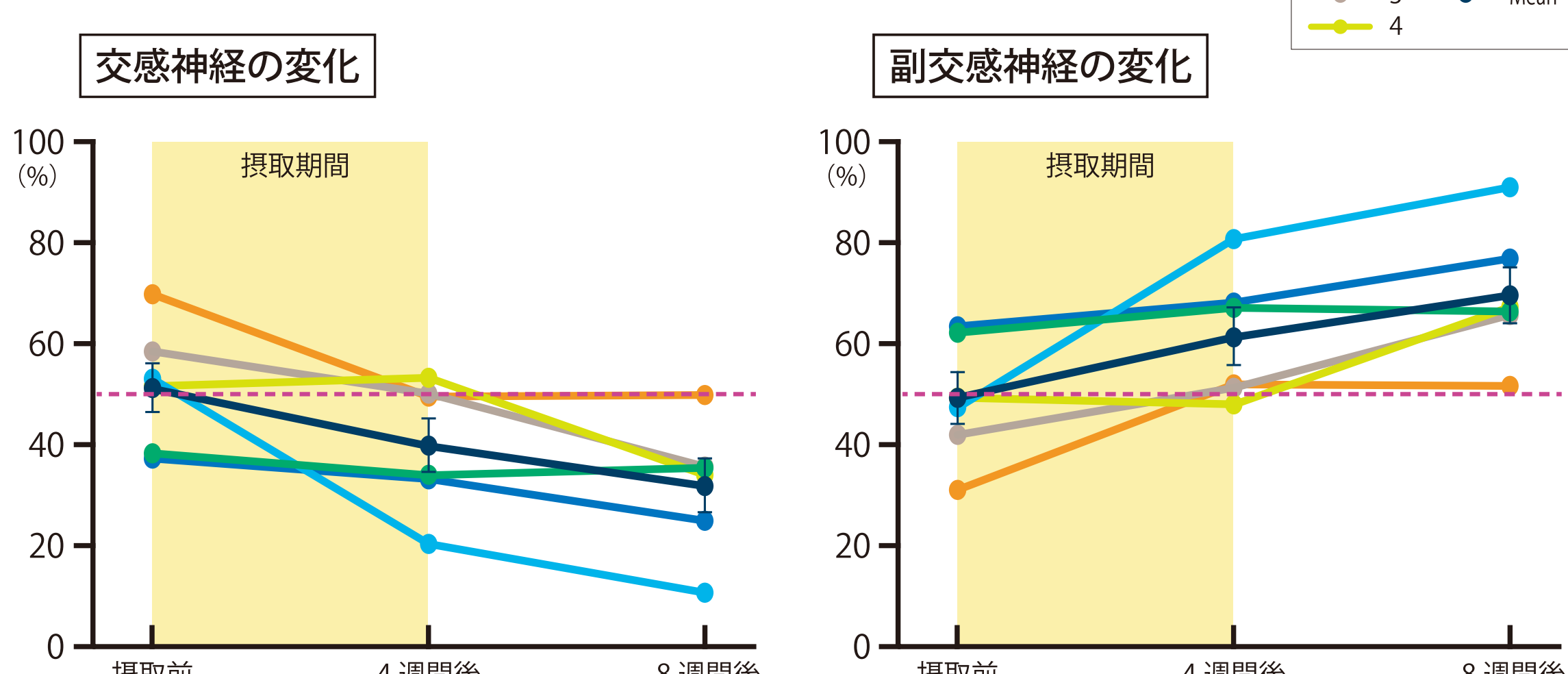
4週間の摂取により酸化ストレスを低減することが確認された。また摂取終了後も低減した値を維持したことから、持ち越し効果がある可能性も示唆された。

唾液中コルチゾール量に対する作用



α -PSP(ライスベリーパウダー)摂取による著しい変化はみられなかったが、摂取終了後、数名に増加がみられることからストレス軽減作用の可能性もあるかもしれない。

自律神経に対する作用

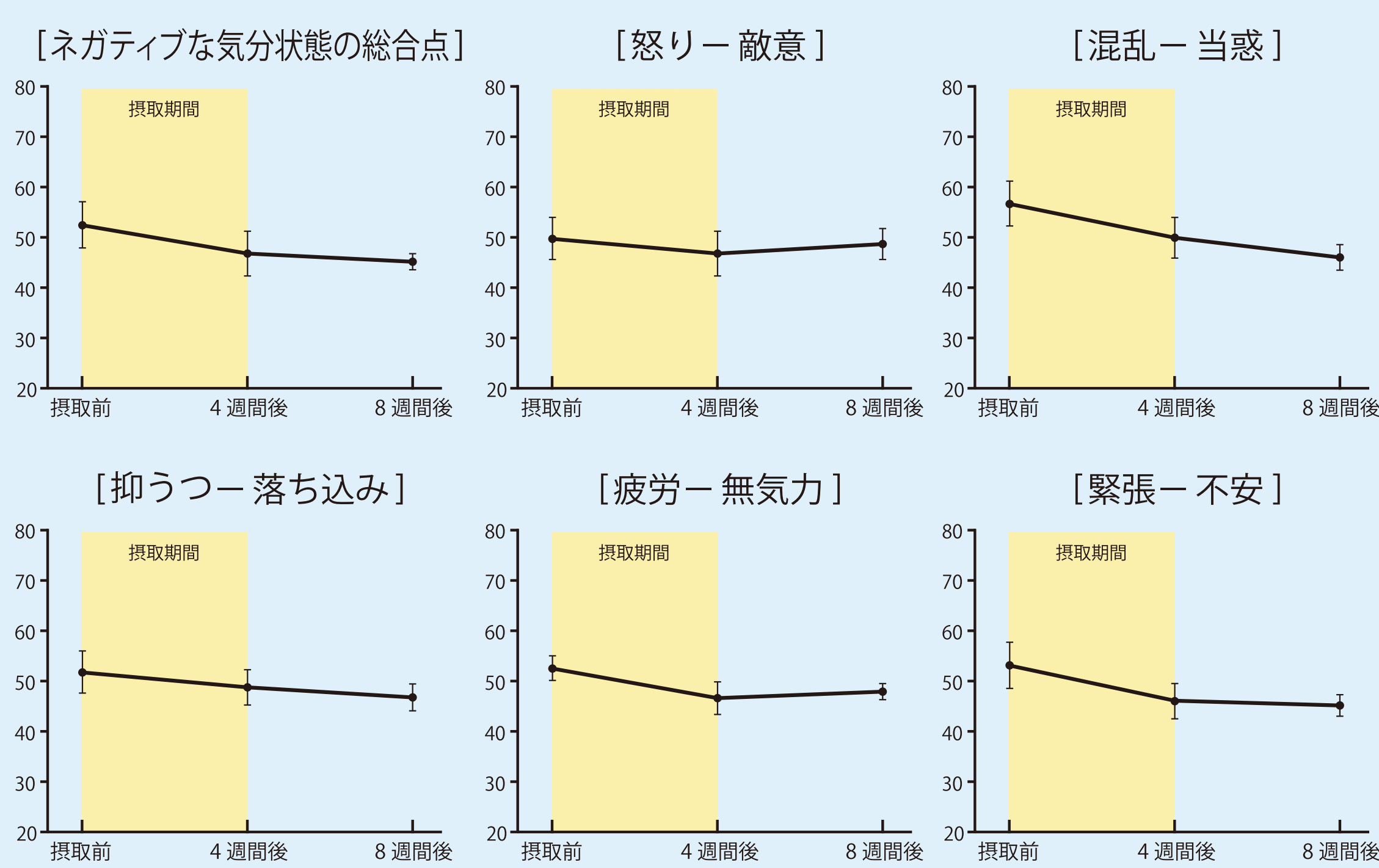


α -PSP(ライスベリーパウダー)4週間摂取(10g/日)による自律神経機能は、交感神経の低下、副交感神経の増加がみられた。この作用は摂取終了後も持続していた。

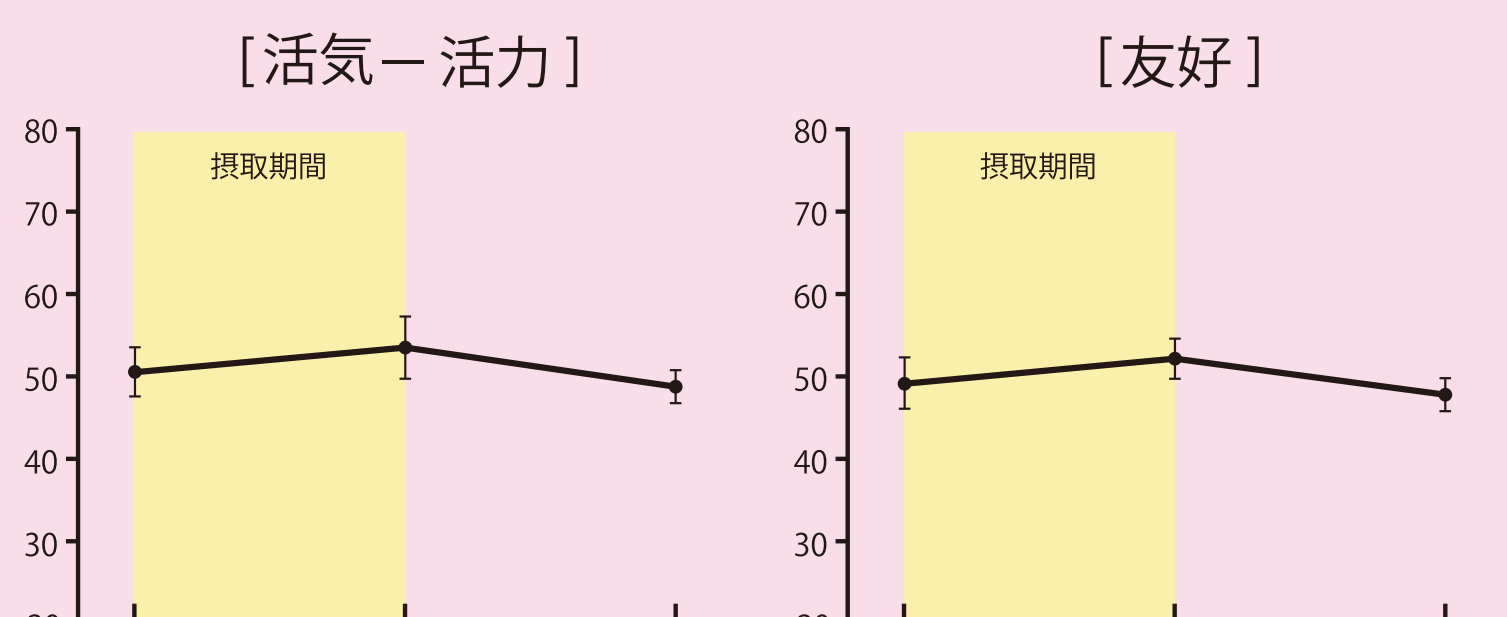
4週間の摂取により交感神経の低下、副交感神経の増加がみられたことからリラックス効果があることが示唆された。また摂取終了後においても副交感神経の優位を維持していたことから、持ち越し効果がある可能性も示唆された。

気分プロフィール(POMS2)に対する作用

ネガティブ因子



ポジティブ因子



4週間の摂取によりネガティブ因子はいずれも減少し、摂取終了後も作用が持続した。またポジティブ因子はいずれも増加し、摂取終了後は減少したことから、気分状態に良い影響を与える可能性が示唆された。